

ランドセルの歴史

ホームガス課 山岡 高志

春になり、我が家も今年から小学校に入学します。昨年の暮れごろにランドセルが届き、背負っている姿を見て成長を嬉しく思うと共に少し寂しい気持ちになりました。

その時、ふと思ったのですが、機能面や安全面などバージョンアップしているところはもちろんあるのですが、私が子どもの頃、使っていたランドセルとそんなに変わりのないことに気づきました。

最近では海外でも軽くて丈夫だということで大人にも人気がある、ランドセルの歴史を少し紹介したいと思います。

ランドセルの歴史は、江戸時代にまでさかのぼります。幕末に輸入され、軍隊で活用されるようになった布製の背のうが、その始まりだとされているからです。

国によって様々な通学かばんがありますが、箱型で背負式の、いわゆる“ランドセル”は、日本独自のものです。その起源は、明治20年までさかのぼります。

ランドセルの発祥とされているのは、明治10年10月に開校した学習院です。当初から制服が採用されていたため、服装については統一されていた学習院ですが、通学形態については、馬車で通ったり、使用人に荷物を預けたりと様々でした。

しかし、その状況について学習院は、「学校では皆平等、家庭環境を教育の場に持ち込むのはいけない」との理念のもと、「学用品は自分の手でもってくるべきだとし、8年後の明治18年、子どもたちは、馬車や人力車で通学することや使用人に荷物を預けることを禁止されました。

その際に採用されたのが、背中に添えて両手をあけることができ、持ち運びの利便性が良かった、軍隊用の背のうです。この背のうがオランダ語で“ランセル”と呼ばれていたことから、“ランドセル”という言葉が生まれました。

箱型ランドセルの誕生

リュックサックに近い形の背のうが、現在のようなしっかりとした箱型ランドセルに変わったのは、明治20年のことです。大正天皇の学習院ご入学祝いに、伊藤博文が箱型の通学かばんを献上しましたが、これが、ランドセルの始まりだとされています。

素材が黒革に決定したのは、3年後の明治23年。明治30年には、細やかな形状や寸法（縦一尺一寸、横一尺五分、マチ幅二寸五分）などが統一され、いわゆる“学習院型”が完成しました。以降、100年以上経過しても基本的なスタイルはまったく変わっていません。

現在のランドセル

「背負うことによって、子どもの負担が軽減できる」、「両手が自由に使える」などの長所から、ランドセルは、小学生用の通学かばんとして広く普及していきました。世界中を見渡しても、似たような背負式の通学かばんは、それほど多くありません。

現在では、海外でも人気のあるランドセル。ランドセルは、“日本独自の文化”だと言えるでしょう。



アポロ新聞

ガスを見守る新しい形 —LPWA—

総務課 前田 光弘



今回は当社のお客様宅にも既に900件以上の設置が完了している、新しいLPガス監視無線通信機器であるLPWA機器の話をさせて頂きます。

まず、LPWA機器のLPWAはそのまま「エルピーダブリューエー」と読みます。このLPWAは経済産業省も薦めている新しい無線通信規格の一つなのですが、これが何の略なのかというと「Low Power Wide Area」であり、LPWA機器を簡単に意訳すると「ちっちゃな電力で広い範囲をカバー出来る機器」となります。

以前から何百件かのお客様宅に電話回線で（お客様に電話代等の負担はございません）自動的に検針をとったりガス漏れを見張る機器を取り付けさせて頂いていましたが、昨今、固定電話をケーブルテレビ電話へ変更したり固定電話自体を止められる方が増えてきました。

そこで、お客様宅の電話線には一切触る事無く、お部屋に入る事も無く屋外のみの工事で取り付けも簡単な機器が必要となり、更に国の進めるIoT推進に沿った機器を、とのことで登場したのが今回のLPWA機器です。

実はこのLPWA機器ですが、なかなか凄い子なんです。LPWA機器の設置に関しての良い点としては上にあげた通りなのですが、実は最大の特徴は「毎日検針を行う事が出来て、非常時には遠隔でガスを止める事が出来、しかも電池の寿命が約10年」というところです。

- 毎日検針を行う事で急な使用量の増加にも対応が可能になり、ガス切れでお客様に迷惑をおかけする事が防げます。
- 非常時に遠隔でガスを止める事が出来ますので、ガスの異常時はもちろん、例えばガストーブを付けたまま出勤した際でも当社へ電話をして頂ければ、こちらからガスを止める事が可能です。
- 電池の寿命が約10年ありますので当然お客様宅の電気をお借りする事は無く、たびたび電池交換をお邪魔する事もありません。電池仕様なので電源コードが無く、更に無線通信ですので配線はメーターとLPWA機器を繋ぐ線のみのシンプルな外観となっています。
- 当然ながら検針員がお邪魔する事はありませんので、普段、土間や離れを通って検針させて頂いているお客様宅にて、わざわざ検針時に鍵を開けて頂く必要もありません。

この様に良い事ずくめの様に見えるLPWA機器ですが、どうしても電波状況の関係で通信が不安定な場所も存在します。そういう電波状況のお客様には申し訳ありませんが設置が出来ません…と、諦めるアポロ興産ではありません。

あくまで現状では設置が出来ませんが、当社が設置しているLPWA機器は今後バージョンアップが用意されており全てのお客様にという訳にはいかないかもしれません、それでも多くのお客様宅への設置が可能になると考えております。

今後も当社はLPWA機器の設置数を年間何百個単位で進めていく予定です。設置の際にはお客様へ案内文書や営業員から声掛けをさせて頂きますので、その際には「ああ、あの凄い子の事か」と思い出して頂ければ幸いです。

